

日中友好新聞

府連通信

2022年11月号
日本中国友好協会
大阪府連合会
〒530-0013
大阪市北区
芝田2-3-19
東洋ビル本館207
TEL06-6372-8131
FAX06-6372-8132
郵便振替口座
00970-5-8978
E-mail:info
@jcfaosaka.org
ホームページ
http://
jcfaosaka.org/

日中国交回復50周年

日中をつなぐ文化のつづき

12月25日(日)
11時半から
エル・おおさか
南館5階ホール
参加協力費 500円

各支部を中心とした「舞台を
使った催し」と、会員や家族、
知人への呼び掛け「展示コーナー
(机やパネル)」の2面構成で
企画しています。

舞台での催し」では、西支部
の太極拳表演、城北支部は中国
語で唄う歌、中河内支部は楽器
演奏をそれぞれ発表、練習も始
めています。また、二胡やスオ
ナの演奏も予定しています。
帰国者センターからは、二胡
伴奏と京劇や広場踊り、ヤンコ
踊りで出演されます。

展示コーナーへの

「作品」を募集

展示コーナーへの出品は、絵
画(油絵・水彩・日本画・水墨・
きりえ)や写真、書道、工芸、
手芸、絵手紙などを募集してい
ます。会員、家族、知人をご紹
介ください。
また、各地で取り組んでいる
「戦争資料展示」や支部ニユ
ーなどの活動紹介のコーナーを
設けます。

北東アジアの平和と友好の旅
国内編く台湾・沖縄の代行です>
国内フィールドツアー

南京町(華僑博物館)～孫文記念館・

「道の駅みき」で昼食・買い物

加西 鶴野飛行場跡 SORAかさい博物館・防空壕

12月9日(金)8時集合 11/21締め切り

国内旅行支援策 適用予定

バス貸切 移動 費用12,000 支援額 4,800

募金(カンパ)を
お願いします

帰国者や留学生と学生は無
料になります。

出演者や出品者の方も、参
加協力費のご協力をお願いし
ます。積極的な募金をお願い
します。

堺支部 12月に市民公開講座

日本軍が遺棄した毒ガス被害の現状

旧日本軍が中国各地に遺棄し
られています。

た毒ガス弾などにより、今なお
中国や日本国内において、多く
の方が重篤な健康被害によって
苦しんでいます。

その援助や治療にあたってお
られる中川医師に続き、原澤医
師に精神科の立場でお話をし
ていただきます。戦争当時から、
非人道性が指摘され、国際法違
反であった、毒ガス等の化学兵
器や細菌兵器を日本軍は中国各
地で使用していました。さらに、
終戦時、その証拠隠滅のため、
土中や河川や池などに投棄して
きました。日本各地でも、遺棄

お話し:原澤俊也先生

(吉田病院 精神科医師)

12月10日(土) 2時半

堺産業振興センター会館

セミナー室2

資料代...500円

〈学生、障がい者の方は無料〉

主催:日本中国友好協会堺支部

西支部 干支うさぎ きりえ講習会

支部最大行事は何と言って
も総会です。1年の締めくく
り総括を行い、それに基いて
今後の方向性を決め、それを
受けて10月30日、第1回役員
会を行いました。

おいても12名中6名が百科検
定について積極的な発言を行
いました。その前段の学習会
として11月23日、初めて外部
会場を借りてのカレンダー学
習会を行います。

本部主催行事でもある、第
12回中国百科検定試験につい
て大いに盛り上がり、総会に

年2回の開催です。からオリ
ジナル学習会です。テーマは
中国56の世界遺産から多様な
形で抜粋しての勉強です。



12月4日恒例の干支きりえ
講習会を開きます。府連主催
文化のつづきにはエントリ
も決め、文化作品の発展も要
望に答える規模にしました。
組織強化の取り組みにも力を
いれ、来年1月〜6月の諸行
事も決定し、大きな自信をつ
けた2世支援署名に引き続き
ガンバロウと意識合わせを行
いました。
(平松悦雄)

東京から長谷川テルの調査で来阪

10月28日(金)午後、東京外
語大学 国際社会学部 中国語
科4年、葉色広香さんの訪問を
大阪府連事務所で受けました。

東京からの来訪で大阪は初め
てということでした。目的は卒
業論文の作成で長谷川テルのこ
とを学びたいと、8月に府連あ
てにメールをいただき、山本副
会長(大阪経済大学名誉教授)
と平松理事が事前にオンライン
で2時間話し、秋には直接訪
問をして聞きたいとのことであ
りました。

葉色広香さんと2名の他に澤
田さん(著書長谷川テル補助者)、
寺島関西大学名誉教授(エス
ペラント等で長谷川テルではお世
した。

お別れには日中カレンダーを
渡し、中国に行けるようになれ
ば是非行きますと力強く語って
いただき、卒論を胸に未来に大
きくはばたくこと願っています。
(平松悦雄)



南京の記憶をつな
ぐ映画と講演の会

12月10日、2時からドーン
センターで、ドキュメンタリー
映画「ミニ・ヴォートリン
南京よ、とこしえに」の上映

と「国際安全区で命をかけた
人たち」を松岡環さんが講演
します
当日、笠原十九司さん(都
留文科大名誉教授・歴史学
者)が安全でなかった「南京
国際安全区について」ビデオ
メッセージで参加されます。

関西ブロック会議
11月19日(土)
13:30~
国労会館1階
府連役員と
支部役員の参加を
要請します。



錯綜する国際関係と中国共産党20回大会

1. トランプ顔負けのバイデン政権対中包囲戦略

「百年未曾有の大変動」

「百年來経験したことのない大変動期」という中国の国際情勢認識については、府連通信ですでに何度か解説してきました。

先日閉会した中国共産党第20

回大会でも何度も語られていました。「百年來経験したことのない大変動期」といのは、地球規模の問題が多発し、世界の不安定性、不確実性が増しているという中国の大局観を示す言葉ではありません。

しかし、筆者が着目しているのは、中国の危機意識がにじみ出ている言葉だということです。すなわち、トランプ政権に始まり、バイデン政権に引き継がれた「対中分離（デカップリング）」宣言と「対中包囲網の形成」が中国に激震をもたらしているのです。

国際環境の安定から不安定へ

1971年のニクソン大統領（当時）の中国電撃訪問によって始まった「中国を味方として引き寄せるために中国との付き合いを深める政策（関与政策）」は、鄧小平による「韜光養晦（とうこうようかい）」（能ある鷹は爪を隠す）政策と共鳴・共振しあって、その後40年の長期にわたる国際環境の平和・安定という絶好の条件を中国にもたらし、世界第二の経済大国化を実現できたのです。

「デカップリング」とは、中

国からすればそのような国際環境を失う大事件であり、「百年來経験」というくりにその衝撃の大きさが示されています。

「デカップリング」政策の分りやすい展開は、安全保障体制、軍事面で中国を敵視し、孤立させる動きです。

アメリカ主導で同盟国を動員するクアッド（QUAD・米日印豪）オーカス（AUKUS・米英豪）など対中包囲網（インド太平洋戦略）が構築され、「台湾有事」を煽りたてながら共同軍事訓練が日常化しています。

2. 世界の対話と融和を重視する国々の中国へのまなざし

対中包囲網は経済面へも

最近の特徴は安全保障、軍事面に止まらず、目には見えにくい「経済安全保障」体制が、じわじわと中国を絞めあげつつあることです。軍事技術に直結する半導体や先端技術が中国に流れ込むのを防ぐという名目で、「禁輸」や経済制裁の対象を中国先端企業ファーウェイ（華為集団）だけでなく無制限に広げつつあります。

中国が世界第2の経済大国になったということは、各国経済と「世界の工場」「世界の市場」としての中国と間に、原材料・エネルギーや部品の相互供給網が結ばれることを意味しています。はよりの経済用語では「サプライチェーン」です。これを

かがやけ憲法 おおさか総がかり集会

かがやけ憲法！平和といのちと人権と『おおさか総がかり集会』が、3日扇町公園で開かれ、3000人の参加者がコールに合わせていつせいに「いかそう憲法」「とめよう大軍拡」のポテツカーを突き上げました。

労働組合と平和運動の青年2人のトークセッションを受けて、ゲストスピーカー岡野八代同志社大学大学院教授が「戦争をしてはいけない平和がたいせつ」と訴えました。

会場では府連役員が12月10日の『南京の記憶をつなぐ集会』の宣伝を行いました。

ASEANやドイツは

中国と対話へ

中国は当然「習近平一強体制」を固め、軍事・経済両面で国内を引き締め「中国はひとつ」「台湾独立許さず」と強面（コワモテ）外交で対抗しようとしています。しかし、目を広げればASEAN10カ国はじめ「対中包囲網」と軍事的対立には背を向け、対話と融和の地域包摂的協力の拡大に努める国々が多数存在しています。

折しも、ロシアのウクライナ侵攻に抗議した結果、石油・天然ガス供給を遮断され苦境にあるドイツからも、首相とフォルクスワーゲン社など独企業が大幅な折衝に入っています。中国が融和と協力の音頭を取れば世界は響く、中国はこの面も大事にしてほしいものです。（山本恒人）



私たちが主役

「文化のつどい」

の成功を

10月30日、西支部総会後最初の役員会を開きました。支部の年間計画や課題を確認しあう中、議題のひとつである12月25日に開催される「日中つなぐ文化の集い」（エル・おおさか南館）について話し合いました。

西支部には多才な会員の方々が多く、つどいでは「太極拳表演」「詩吟」「中国語で合唱」などで出演を決め、練習も始まりました。「絵画」「切り絵」「俳句」の展示など、盛りだくさんで参加を予定しています。乞うご期待！「私たちが主役です、脇役です、観客です」協力券を買ってみんなで成功させましょう。（西支部 平澤京子）

中河内支部 中国地理や政治経済を学ぶ

「河内の歴史を学ぶ会」の例会を10月22日に開催しました。今回は、中国の三国志時代、日本が倭と呼ばれる時代のことを書かれている「魏志倭人伝」をテーマに、中国と日本の関りのある最も古い文献について学習しました。



卑弥呼

九州の北部地域に邪馬台国が存在したとしています。皇国史観や、古事記・日本書紀（500年後に書かれた）を正しいとして、歴史的文献を都合の良いように誤記だと改変しています。改めて原文に忠実に、正確に読むことが重要だと言われている、原文に基づいた新たな提起も行われています。

当時の中国と日本の歴史的状况を学ぶことは、今日の日本の歴史や文化の発展に欠かせないことで、面白く学ぶことができ、面白く学ぶことができました。（中河内支部 浜正幸）

城北支部総会 多彩な発言

10月28日（金）5時半から第3回城北支部総会を開催しました。参加者は18名でした。栗田事務局長を議長に選出し、佐藤支部長の開会あいさつ。その後、山本府連副会長に「中国最新事情」と題して講演していただき、閉会したばかりの中国共産党第20回大会の内容と今後の動向について分かりやすく分析されました。

西協副支部長による議案報告、森協事務局長による会計報告の後、質疑に入り、5名の方から発言がありました。（梶さん）「私の中国との接点は、若い頃読んだ漫画『キングダム』で知った始皇帝でした」、（難波さん）「王希奇の描いた『1946』を見て戦争の悲惨な場面を思い出した」、（柳さん）「7月に百科検定・初級を受験し、知ることの喜びを感じました。12月の3級めざして頑張ります」、（森協さん）「この間、5回の中国映画を鑑賞しました。『活きる』では、政治の変動に振り回されながらもたくましく活きる庶民が描かれていて感動しました」「第20回党大会の報道を見て怖くなる。国民レベルの交流がますます重要だと思う」、（藤崎さん）「20年前、中国の山村に学校を建設し教育支援する運動に約10年間関わった。私の人生にとつて忘れられない思い出です」など、いづれも素晴らしい発言でした。

議案、会計報告を提案通り確認し、井上世話人の閉会あいさつで終了しました。（西協義彦）

